

平成 27 年 8 月 14 日

作成：佐々木農業研究会

1. 収穫に向けて

今年の稲は、植付け時期が早いと生育の速度が早まっています。

ほ場によっては、**紋枯病に感染、被害が拡大しております**。稲の株元を良くご確認下さい。

いもち病は胞子が風によって運ばれ広く被害をもたらしますが、**紋枯病の菌は水上を漂い広まるので、ほ場ごとで被害に差が出ます**。

今年は、早くから高温に推移したので、**早植えのほ場ほど紋枯病の被害が大きくなる**と考えます。

2. 極早生・早生の短秆品種に被害が大きい

紋枯病は、高温を好む病害です。

気温の高い時に出穂している極早生・早生ほど、被害が拡大します。

また、株元から病気が伸展しますので、**草丈の短い品種ほど早く穂首に到着し、被害が大きくなります**。

3. 紋枯病にかかると稔りが遅くなる

この病気の特徴は、まず思わぬ品質低下と減収の被害をもたらします。

登熟がすすまないのので、**いつまでも籾が青いまま**となります。

この青い籾が、「収穫はまだ？」と思わせてしまい、**刈り遅れを誘導**します。

今年、白未熟粒や胴割れ米が多かったら、まず、紋枯病の被害を疑って下さい。



★ 病気にかかっていない健全な株を見て、収穫時期を判断しましょう！